

令和8年8月20日

西部農林水産振興センター益田事務所農業部

標 題	酷暑に負けず1年1産を目指すために～授精師会西部支部研修会開催～
-----	----------------------------------

(ダイジェスト)

島根県家畜人工授精師協会西部支部では、地域の繁殖を支える家畜人工授精師（以下、授精師）が今一度基本に立ち返り、授精師間での意見交換や情報共有を行うことでスキルアップを図ることを目的として研修会を開催しました。管内外の授精師14名が参加し、講義を受けたあと実物の子宮や卵巣を用いて授精技術の再確認を行いました。

西いわみ和牛改良組合は公益社団法人全国和牛登録協会が行う表彰事業（全国の改良組合単位での繁殖成績を順位付け）において16年連続して上位に入賞するなど、分娩間隔短縮のため地域で定期的な繁殖巡回で長期不受胎牛の解消に努めています。このたび、島根県家畜人工授精師協会西部支部として、授精師メンバーが今一度基本に立ち返り、意見交換や情報共有をし、一層のスキルアップを図ることを目的として研修会を開催しました。

畜産技術センターの長谷川主席研究員を講師に迎え、前半の講義では基本に立ち返り牛の生殖器名称の筆記テストを受けました。

実技では実物の子宮や卵巣を用いて直腸検査の所見の取り方や卵胞や黄体の確認をとおして普段の授精業務で困ったことや微弱発情時の所見など、活発な意見交換がされました。また、ベテランが経験年数の浅い授精師に子宮頸管の通し方にアドバイスを送る場面も見受けられ、研修を通じて縦横のつながりができました。

研修後のアンケートでは「基本的なことを再確認、卵巣・黄体の確認ができた」「実際の卵巣・子宮をみて意見交換できてとても勉強になった」「実際に卵巣・子宮に触れるのは毎年やって欲しい（特に卵巣）」等感想がありました。

地域の牛群の未来を支えている授精師は、普段単独で業務を行っていますが、それらのメンバーが一堂に会したスキルアップ研修会は、地域全体の牛の繁殖を1年1産レベルに維持するためにはとても大切な取り組みです。農業部では、授精師会と連携し1年1産を目指していきたいと考えています。



講義中の様子



ベテラン授精師による指導



不受胎牛の卵巣所見の目合わせ